

Weekly Report

2011～2012年度



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

平成23年10月18日(火)

第1601回例会

会長 中島 眞一

幹事 佐藤 進

会報 中村 和広

川崎百合丘ロータリークラブ ホームページ

<http://www.kawasaki-yurigaoka-rc.jp/>

我が百合丘ロータリークラブの
のちのちのありたい姿は
地味に有る様にかたは
こころの上にはあきら
に見られぬ程にこそ
知る化の道によりは
それらを知りてこそ
なるとは思ふ
清風はよい
清純な乙せを感
せよとある
昭和五十二年春吉日
大友

作者の言葉

第1601回例会記録 平成23年10月18日(火) 15/46回

<点鐘>

中島眞一会長

<お客様ご紹介>

中島眞一会長

米山奨学生 任賢豪君

<ソング> 我等の生業

<会長報告>

中島眞一会長

<入会式>

東会員の後任で鶴丸会員が入会されました。

1. クラブの国際奉仕委員長会議開催

渡邊委員長に参加していただきます。

2. 「入会3年未満のロータリアンのためのR情報セミナー」開催のご案内

11/14(月)15:00～17:00

メモワールドプラザソシア21

浅沼会員、古澤会員、粕川会員に依頼しました。

3. 2012～13年度ロータリー青少年交換留学生募集にあたりクラブ推薦フォーム送付の件

4. 社会福祉法人NHK厚生文化事業団よりチャリティーコンサートのお知らせ

パンフレットがきております。事務局へお問い合わせください。

5. 地区大会での今年度入会会員の登壇にあたり、粕川会員にお願いしました。



<幹事報告>

佐藤幹事

*文書着 新川崎RC 川崎高津南RC

川崎麻生RC 川崎日吉RC

川崎稲生RC 川崎北RC

<ニコニコ委員会>

玉井委員

中島眞一会長→「鶴丸様、入会おめでとうござい

第1603回 11月1日 招聘卓話③ 財団関係者

第1604回 11月5日 地区大会

第1605回 11月15日 クラブ協議会③

※諸事情により、スケジュールは変更になる場合があります。

ます」。佐藤幹事→「任君、卓話よろしくお願ひします」。以下、感謝をこめてニコニコへ。安藤登会員、安藤亨会員、安藤志子会員、井上勇会員、伊丹会員、鴨志田会員、北島会員、浅沼会員、小塚会員、内藤会員、中島健児会員、中村会員、野島会員、大矢会員、佐々木会員、嶋会員、白井会員、鈴木会員、高田会員、田内会員、渡邊会員、山口篤会員、山口福祉会員、結城会員、玉井会員。

<出席委員会> 山口篤委員

	会員	出席	欠席	マーク	出席率
第1601回	42*	34	8		80.95%
第1600回	42*	32	10	4	85.71%

*出席免除会員2

<米山奨学委員会> 中島健児委員長

佐々木会員→「家内のバースデイにお花をありがとうございました」。

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	27件	27,000円	416件	526,245円
財団	0件	0円	15件	140,000円
ベネファクター	0件	0円	2件	156,000円
米山	1件	10,000円	14件	183,000円

本日のプログラム

<社会奉仕委員会> 白井委員長

あしなが募金活動の協力のお願い。

10/22(土)新百合ヶ丘駅前にて、雨天決行。

<職業奉仕委員会> 伊丹委員長

11/29(火)移動例会で職場訪問を行います。

申込みを受け付けています。参加費は1人3,000円。

<ローターアクト委員会> 結城委員

18~30歳の会員を募集しています。当クラブでもサポートしていきたいと思ひます。

<招聘卓話> 任賢豪君

私は吉林省(旧満州)の出身です。国籍は中国ですがアイデンティティは朝鮮・韓国(朝鮮民族)です。吉林省では戦前は日本の植民地だったことと、経済的に豊かな都市ではなかったために英語教師が少な

く、日本語を第一外国語として学んでいる人の多い地区です。

2006年に中国の大学を卒業後、2007年に来日しました。中国で建築を専攻していましたが、中でも冷暖房に興味をもち日本の進んだ技術を勉強したいと思ひ日本へやってきました。昨年4月からは、明治大学大学院に進学し、建築環境設備の省エネルギー分野を研究しています。よく日本語が上手だと褒められますが、それには二つの理由があると思ひます。一つは中国語と朝鮮語の両方を話すことができることです。日本語と朝鮮語は同じ言語体系であり、加えて漢字に対して障害がないので、日本語が外国語とは見えませんでした。二つは朝鮮民族だったために内では朝鮮語、外では中国語という違う文化が溢れる環境で24歳まで育ってきたことです。そのお陰で来日してすぐに環境に溶け込むことができたのだと思ひます。このような立場から異文化コミュニケーションについてお話します。色眼鏡を捨てる、相手が何を望んでいるのかを見定めるなど大切なことはいろいろありますが、一言で言えば「Giveを優先すること」です。Give(=奉仕)された人は感動し返したいという気持ちが生じるのではないのでしょうか。これこそが国と文化を超えるパワーになるかも知れません。

私はロータリークラブから毎月いただく奨学金のお陰で、勉学に集中でき就職活動も無事に終わらせることができました。来年からは三機工業で日中の架け橋となる仕事に参加し、皆様の恵みを忘れずにもっとがんばっていきたくと思ひます。引き続きご指導をよろしくお願ひします。

